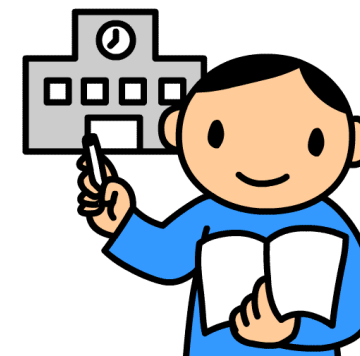
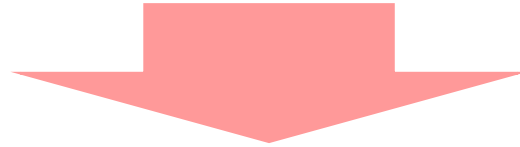


学習支援グループの取り組み

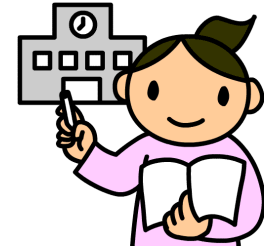


取り組みの目的

個別最適な学びにつながる指導・支援をめざして
～子どもが主体となるICT活用の検討～



・ICTの活用に向けた指導者の資質・能力の向上



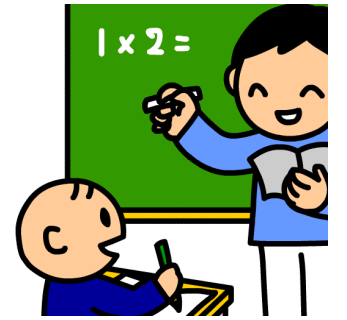
・ICT活用により、個に応じた学習活動・課題の提供と個別的で最適な学習方法の実現

(子どもの積極的な学びへの参加と学びを深め、広げる機会の充実につながる)



取り組みの方法

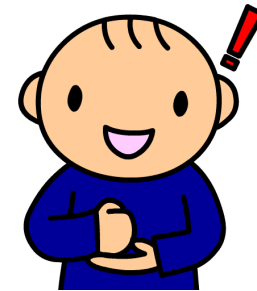
学習場面（授業に限らない）で活用した個別の事例を
1～3程度発表



*アプリの使い方を含めて 実践

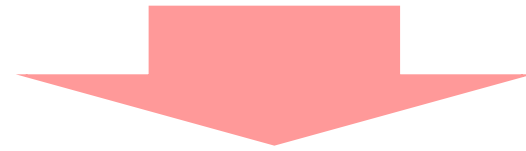
*改善点や工夫点など 意見交換

*発展させた使い方の紹介や検討



取り組みの方法

発表者の事例をグループ全員で共有し、
意見交換・検討



実践事例報告をまとめる



学習支援グループの実施状況

実施日	内 容
6 / 19	今後の進め方と実態と意識調査
7 / 3	事例発表1・2 (DropKit、Pages)
9 / 11	事例発表3・4・5 (漢字チェッカー、StarWalk、Gogleレンズ)
9 / 30	事例発表6・7 (ロイロノート、グロウンお日さま観察日記)
10 / 30	事例8 (KOMA KOMA)
11 / 14	事例9 (GarageBand)
12 / 12	事例10 (DropTap)
1 / 13	事例11 (PowerPoint)
1 / 30	まとめ

学習支援



【教科学習支援】★タブレット端末と様々なアプリを利用した学習支援

使用アプリ・ソフト	学習課題・目的
DropKit	フラッシュカード機能を利用し、5までの数を感じて判断する力を養う。
Pages	図形描画、色塗り技術がなくても、簡単な操作で自由にデザイン制作に取り組める。
漢字Check	自分で分からない漢字を手書きで簡単に調べ、よく見て書くことができる。
StarWalk	Myプラネタリウムのように今日の星空を再現することで、手軽に星の観察が可能。
グロウンお日さま観察日記	音声入力でコメントを書いたり、画像貼り付けたりして手軽に日記を付けることができる。
KOMA KOMA	手軽に連続した動きを作れ、動きの連続性や変化を学習したり、楽しんだりすることができる。
Garage Band	ピアノ、ギター、琴などの多数の音源があり、キーボード代わりとして使用。鍵盤数の変更も可。
Power Point	大事なところが分かりやすい、プリント学習と連動させることで学習効果が高まる。

【KOMA KOMA】



対象・目標

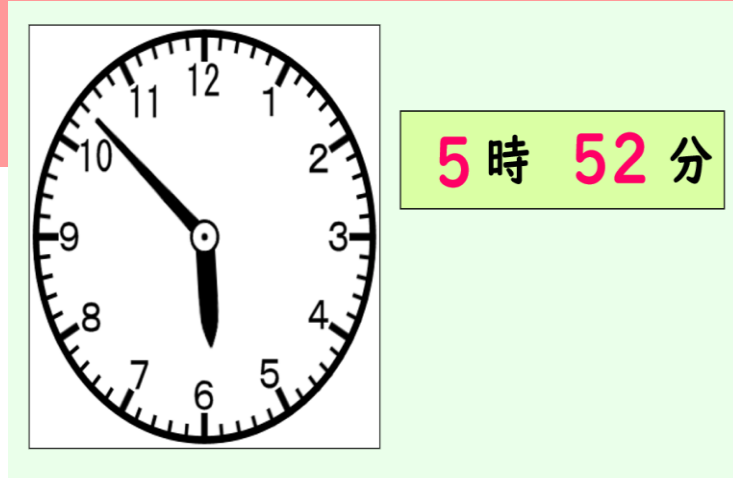
- 中学部Aグループの美術
- コマ撮リアニメーションで動かすことで、自分の作品に躍動感を与えることができる。

効果・評価

- コマ撮リアニメーションで動画にすることが分かったら、生き物や背景になる土台作りに意欲的に取り組めた。
- 動かすイメージをもち、工夫する活動に広がりがあった。
- 制作時間の個人差をうめることができた。



【Power Point】

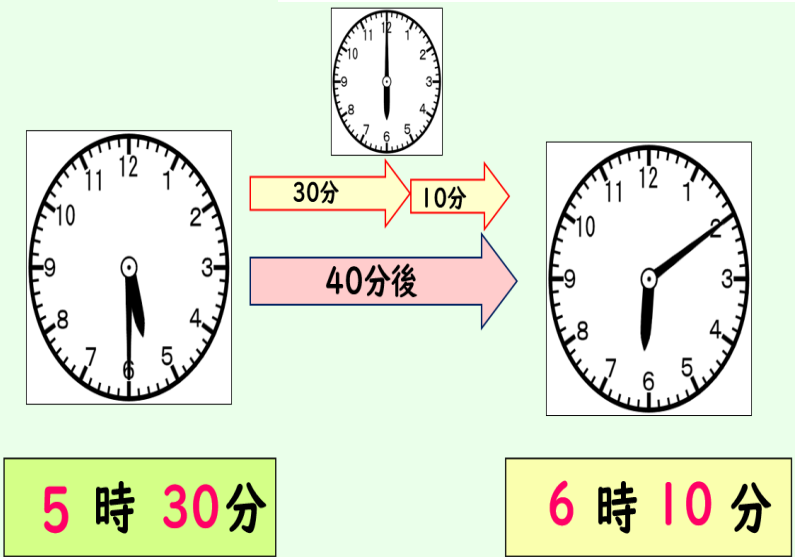


対象・目標

- 高等部数学
- 時計を見て、瞬時に時刻が分かる。
- 時刻を見て、感覚で残り時間を認識できる。

効果・評価

- 大事なところをピックアップして伝えることができた。
- プリント教材と比較すると注目させたいところを分かりやすく伝えることができた。
- プリント学習と連動させることで学習の定着が図りやすい。



学習支援

【認知発達支援】★タブレット端末などを使いながら、個々の学習課題を支援

使用アプリ・ソフト	学習課題・目的
DropKit	個々のタブレット端末で、カードをめくる速度を変えることができるので、能力差がある子どもに合わせて課題数や難度を自由に変えて学習することが可能。
漢字Check	漢字の構成を大きな文字でチェックすることができる。
グロウンお日さま 観察日記	複数の日記を同時に独立して記録できるため、用途に応じて個別的に記録として使い分けできる。カレンダー形式で一覧での閲覧ができる。
ロイロノート	シンキングツール（思考ツール）を活用して、自らの考えを可視化することで、情報や考えを整理し、意見の比較や共有がしやすく、新たな考えや気付きができる。

【DropKit】



対象・目標

- ・ 中学部数学
- ・ 数の見分け、すばやく数を数える
- ・ 数をまとまりで認識する

効果・評価

- ・ 共通の画面でクイズ形式の学習になるため、意欲的に取り組みやすい
- ・ できる、できないが周囲に分かりにくく、一斉学習と個別学習の両方の利点を合わせた指導が可能
- ・ ワンクリックで簡単にフラッシュカードとして使えるため、子どもの習熟度にあわせやすい（個々のタブレット端末を用いての学習（個別学習も可能））



【漢字check】



対象・目標

- 漢字の構成を大きな字でチェックする
- 書きものをしていて分からない漢字があるときに調べる

効果・評価

- 手元で字を大きく表示させることができるため、線の本数など、漢字の構成の細かな箇所を確認することができる。
- 筆順も記入してくれるので、字を書くときバランスがとりやすい。
- 手書きにも対応しているので扱いやすい。



学習支援

【社会生活支援】★苦手な活動や自分の姿を振り返るモニタリング支援

使用アプリ・ソフト	学習課題・目的
Google レンズ	(書字が苦手な活動が進まない) カメラで文字をコピーしてパソコンで貼り付けが可能(書かなくてOK) (スケジュール管理が苦手) 名刺の相手を連絡先に保存したり、目にした予定をカレンダーに追加ができる。
グロウンお日さま 観察日記	(言葉で記録が難しい) カメラで撮影した画像で記録が可能、音声認識で入力可能 (記録をまとめたり、整理することが苦手) 観察日記をカレンダー形式で自動で整理して表示。PDFで印刷して出力もできる。
ロイロノート	(整理・分析が苦手) 分類、比較、関連付け、構造化などのシンキングツールを利用することで集めた情報を整理・分析しやすい
Drop Tap	(スケジュール管理が苦手) ドロップスのイラストを活用して簡単にスケジュールやToDoリストを表示可能 (発語でのコミュニケーションが苦手) Voca機能を活用して音声でのコミュニケーションが可能

【グロウンお日さま観察日記】



対象

- 書くことが苦手なので、書字が必要な日記や記録などの活動はなかなか進まない。
- 記録をまとめたり、整理したりすることが難しい。

目標

- 出来事を画像やコメントを入れて記録として残す。
- カレンダー形式で可視化された情報をもとに発表内容を考えたり、まとめたりする。

効果・評価

- キーボード入力が難しい子どもでも、音声入力を活用したり、カメラ機能を利用して画像を残したりすることで、日記などの記録を付けることができた。
- 記録が自動でカレンダー表示され、PDFで印刷して出力もできるため、経過が分かりやすく考えをまとめるのに役立つ。



【Drop Tap】

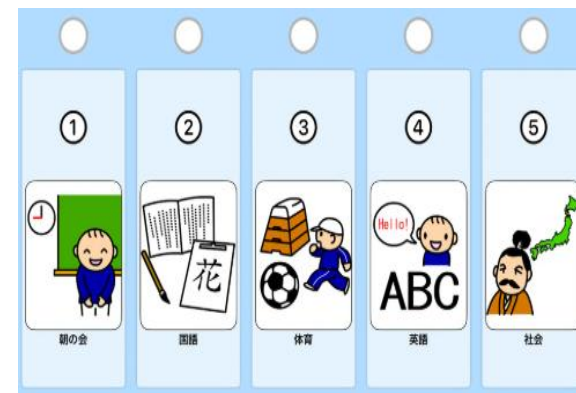


対象

- ・うまく発語ができず、音声によるコミュニケーションが難しい。
- ・見通しがもてないと不安になる。

目標

- ・Voca機能を活用して音声でのやり取りや発表を行うことができる。
- ・分かりやすいスケジュールやToDoリストを用いて見通しを図る。

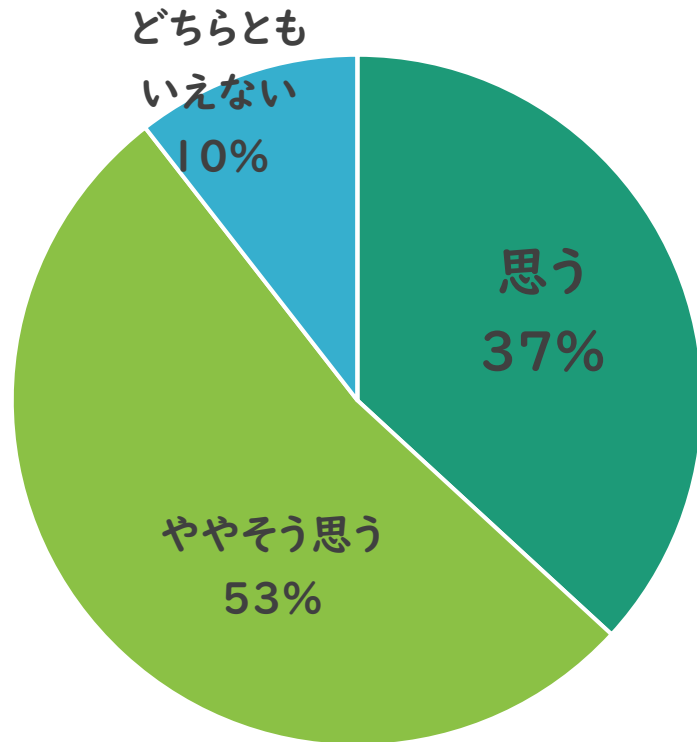


効果・評価

- ・発語が不明瞭な子どもや人前で話すことが苦手な子どもでもVoca機能を活用することで伝わる喜びを実感しやすい。
- ・実態に応じて、50音表、文字やイラストなどをVocaとして活用することができる。
- ・ドロップスのイラストを活用することで、分かりやすいスケジュールやToDoリストを作成し、活用することで、活動に見通しがもて不安定になることが減った。



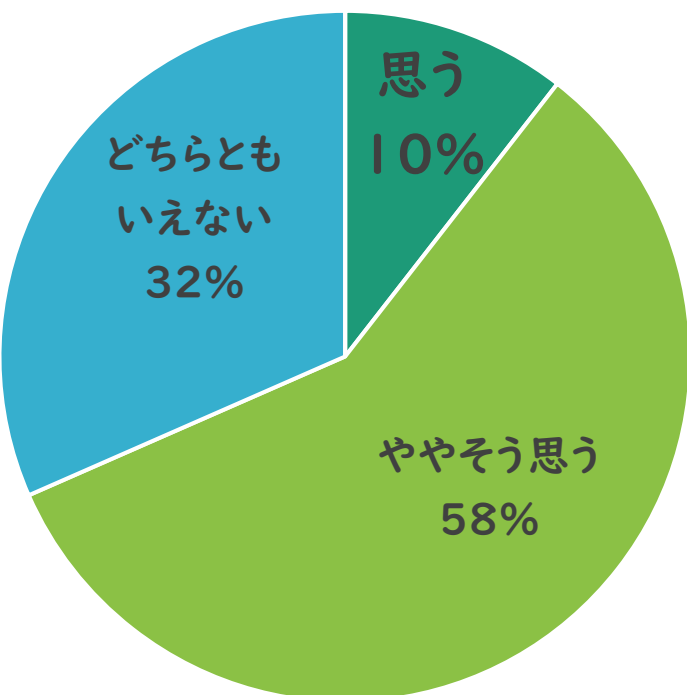
● ICT活用に向けた知識や能力が向上したか？



- ICT活用に関する知識が増え、技術が高まった
- 使用したことのないアプリや、ICTの新たな使い方、活用のヒントを知ることができた
- 活用の事例を知り、自分の実践にすぐに活かせた
- 知り得たアプリなどを授業で実践するきっかけになった
- ICT活用のすそは広がっている
- △研修で得た知識を使うことがないまま
- △実践できておらず、自分のものにはなっていない



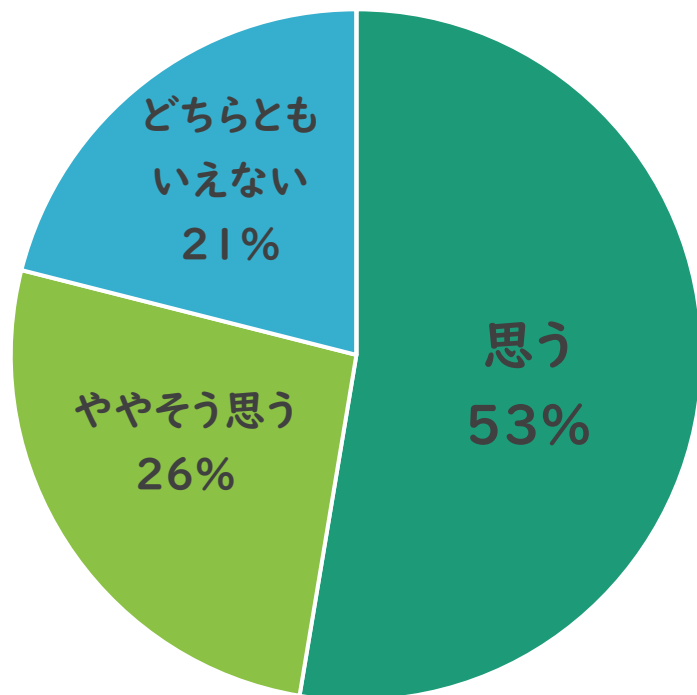
●授業や学校生活全般で、子どもにとってより最適な学びにつながるICT活用を行うことができたか？



- 子どもの意欲が向上し、ICTを活用する機会が増えた
 - 学習への興味関心が高くなる
 - 自主的に調べたり、見たりすることが増え、学習活動が広がった
 - タブレット機能やアプリを子ども自身から活用することが増えた
 - 子どもの習熟度、特性、興味、課題に応じた学習を提供できた
-
- △すべての子どもに対して活用できていない
 - △担当する子どもに合った内容が少ない
 - △より最適な学びにまでつなげる活用まで至っていない
 - △日々の授業準備に追われ、新たな活用、取組ができない



● ICT活用は子どもにとって最適な学びにつながるか？



- イラストや写真など視覚的支援が簡単にでき、意欲や学習理解の向上につなげやすい
- 知的、スペクトラムの子の能力として難しいことを補ったり、支援したりするツールとなり得る
- 子ども自身から授業などに主体的に参加する場面が増えた
- 学習に対する子どもの集中、注目が容易に可能
- 子どもの食いつきがよい、抵抗感なく取り組める
- やりたがらない子どもが積極的に学習に取り組むことができた
- 自分の思いを伝えたり、理解を深めたりすることができる

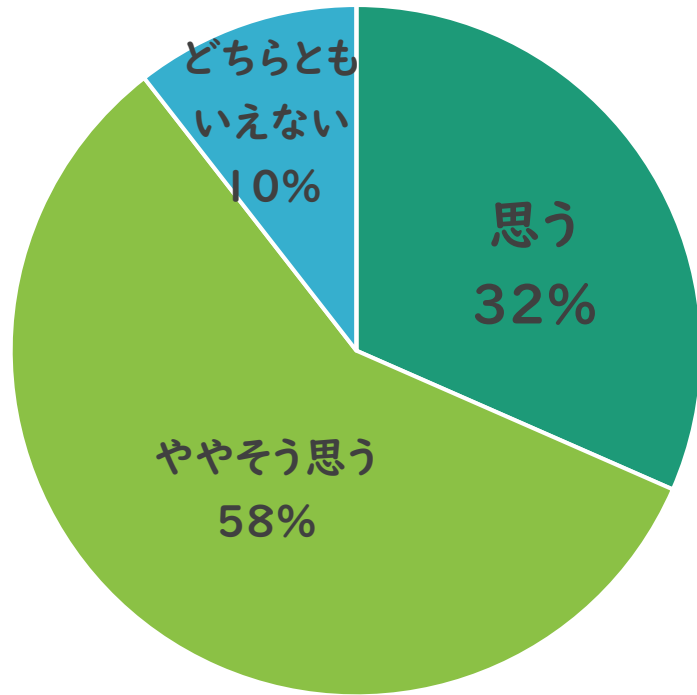
△何をどう使っていけばよいか指導者側が分からない

△ICT活用が最適な学びにつながらない場合もある？

△学習の定着にはアナログな活動も必要



● 子どもにとって最適な学びの実現にICTの活用は必要か？



- 一人一人の学び、実態に対応できる
- 家庭、社会生活全般に広がっているので学習での使用も必然
- アナログよりもより個に合った支援ができる
- 子どもが興味をもちやすく、意欲につながる
- 一人一台端末の活用が今後さらに推進される状況にある
- 情報提示、意思表示、考えをまとめる手段として有効
- 視覚情報が理解を促したり、深めたりできる
- 特性の苦手な部分を補うツールとなり得る

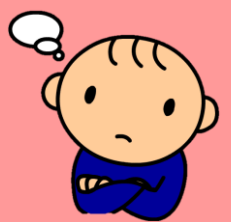
△必要以上に機器にこだわり、ICT活用に向かない子どももいる

△ICT機器を使うことのみが楽しいと感じている子どももいる



成果

- 使用したことのないアプリを研修で扱うことで、使い方を知り、活用の仕方を考えるきっかけとなった。
- 事例として紹介されたことで、実践的な活用の仕方が分かり、すぐに真似をして使うことができた。
- ICT活用について改めて考えるよい機会となった。
- 子ども自身が自主的に調べたり、見たりすることが増え、学習活動が広がった
- 子どもの学習意欲や集中につながった
- 子どもの学習理解の向上、学習方法の選択ができるようになった



課題

- 学習指導の目的別ICTの活用が分からない
- 指導者側がアプリやICT活用が難しい
- 新たな研修や取組は負担が大きく、実践につなげる余裕がない
- 常にアップデートし続けることが必要だが、現状難しい
- 分かったつもりになっている
- 機器不足、アプリの利用制限など、ハードやソフト面の限界



考察

個別化と個性化の実現

ICTを活用することで…

- 一人一人の特性、興味・関心、習熟度に応じて学習課題を精選して提供することが可能
- 興味やキャリア形成の方向性に応じ、自らが課題設定、学び方を選択し、主体的な学びが可能